

【１】江迎地区ってこんなまちです

（江迎地区の紹介）

平成２２年３月３１日、佐世保市へ編入合併した江迎地区は、長崎県本土地域の最北部、北松浦半島中心部を町域とし、佐世保市の中心市街地から北西へ約２０kmの場所に位置しています。江迎川が東から西へ横断しており、北西部は半島に切り込んだ江迎湾に接し、北部・南部には丘陵地が広がっています。

江迎は古くから交通の要衝であり、江戸時代には平戸藩の本陣が置かれ、平戸往還の宿場町として栄えました。

〔佐世保市における江迎地区の位置〕



また、北松浦半島では半島内の各地域で石炭を産出し、北松炭田として栄えました。そのためかつては町内にも数ヶ所の炭鉱がありましたが、１９６０年代にすべて閉山し、現在は農業が中心です。

町おこしの一環として始められた「繭玉（ちりめん細工の飾り玉）」は、今や江迎地区を代表する手工芸品の一つとなっており、毎年春には「肥前えむかえ繭玉まつり」も開催されています。

（江迎地区の名所）

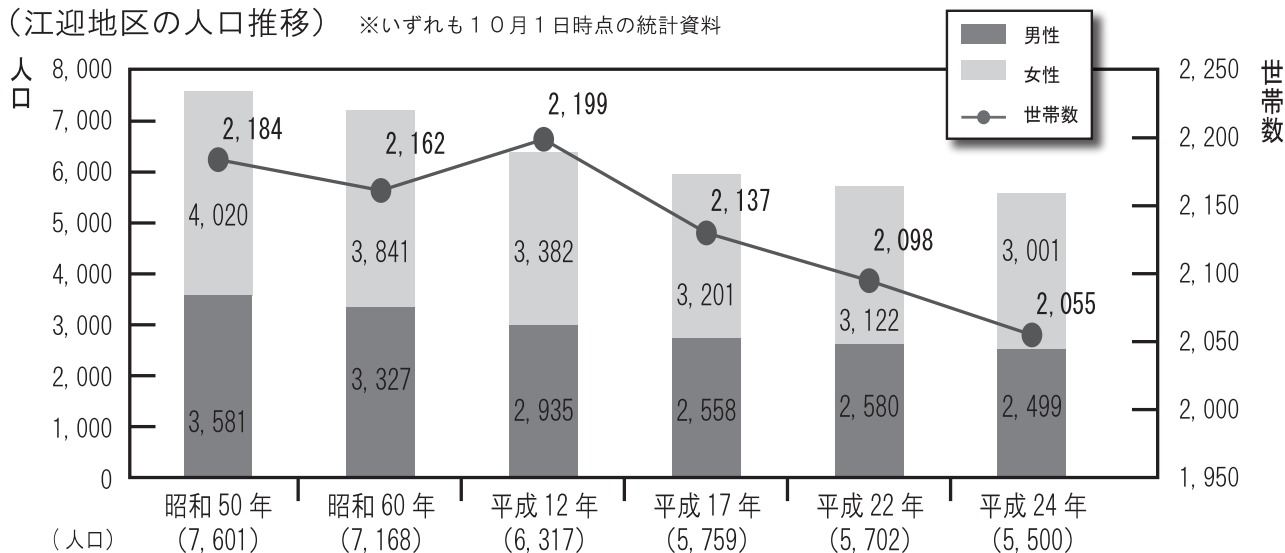
■ 潜龍ヶ滝（平戸八景）

■ 長崎県立白岳国民休養地（白岳公園）

■ 高岩（平戸八景）

■ 江迎本陣跡（県史跡）

（江迎地区の人口推移） ※いずれも１０月１日時点の統計資料



(江迎地区“わがまち自慢”)

江迎地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

景 勝 地

高岩は平戸街道江迎宿の手前にそびえる大きな砂岩の岩山です。北松八景の一つで国道204号線からも見ることができ、松浦鉄道・高岩駅前にそびえたっています。また、高岩の下を流れる江迎川には高岩から崩落した大きな岩がいくつも苔むして横たわっています。11月になると高岩の絡まっているツタが紅葉となりとても美しいです。(他に…白岳公園、潜龍ヶ滝など)



ま つ り

毎年、8月23日・24日の2日間、賑やかに開催されるのが「千灯籠まつり」です。平成元年には「日本一に挑戦」と銘打ち、日本一高い25メートルの灯籠タワーづくりに成功しました。それまで1,200個だった街路の灯籠も人々の協力により9,200個に増加し、その数でも日本一となっています。祭り当日の夕闇が迫るころ、町中の灯籠が一斉に点灯され、町は一面幻想的な光の世界へと変貌します。(他に… 繭玉まつり、クリスマスファンタジアなど)

文 化 財

江戸時代、平戸藩は江迎を通り佐世保を経て東彼杵までの「平戸街道」を通して参勤交代を行っていました。国道204号線そばにある建物は、参勤交代のおりにかならず藩主が宿泊した宿舎(本陣)であり、平戸藩主松浦熙(ひろむ)が天保元年(1830)に再整備したもので、長崎県下でも唯一当時のまま残っている貴重な文化財です。また、山下家は元禄年間(1688～1704)から酒造りを行っている旧家で、当時の酒母蔵が残っており長崎県指定文化財となっています。(他に… 長坂浮立、きねかけ祭り、水かけ地藏など)



農 業

グリーンツーリズムと連動した黒大豆の栽培や、米をはじめとして肉用牛、イチゴなどの生産が盛んに行われています。